

明るいまちづくり めいほ

第25号
R2.3

発行：明保地区明るいまちづくり協議会
〒320-0851
宇都宮市鶴田町 3668-36
明保地域コミュニティセンター内
TEL/FAX 028(648)7253
Eメール:miho_com@snow.ucatv.ne.jp

地域の足は自分たちで守る

人と地域をつなぐ生活交通を

地域住民の高齢化が急速に進み、

☆自ら運転が困難となり、運転免許を返納した、または検討している。

☆路線バスまでの歩行が負担となってきた。

☆タクシーでは経済的負担が多い。

などの方々が増えています。日々の日用品や食品などの買い物、医療機関などへの移動手段について日常の生活の足の確保が喫緊の課題となっています。

一方、住み慣れたこのまちで住み続けたいと願っている方々が多く（一昨年の地域包括ケアシステムでのアンケート結果）、共助の移動サービスとして、《地域の足》となる交通手段の必要性について、調査・研究しながらコミュニティ交通の導入に向けて検討を行っています

《コミュニティ交通は児童など家族の誰もが利用できるサービスです》

定時定路方式⇒路線バスと同様に停留所を設置して、決まったルート（路線）を時刻表どおりに運行



次ページに続く

明保地区地域内交通検討推進状況

ステップ	項目	検討・推進内容
第1ステージ 平成29年2月～令和2年2月	まちづくりビジョン策定委員会「支え合い生きがい」チームメンバーによる検討・研究・調査を行いました。	* 勉強会（検討・研究・調査など・9回実施） 行政からの指導助言、明保地区高齢化推計、免許証返納制度、地域内交通の課題抽出、公共交通利用実態、生活移動の検証、事業者との意見交換、一人暮らし高齢者生活アンケートの実施・分析、先行地区の事例調査・研究、定時定路型運行の利便性など * 関係団体への説明会（自治会役員、関係団体） 明保地区地域内交通の計画ならびに今後の推進状況について
第2ステージ 令和2年3月～令和3年3月	明保地区明るいまちづくり協議会の傘下組織として「地域内交通検討委員会」を設置し、推進内容について作業を進めます。 （構成部会） ・総務企画部 ・運行検討部 ・資金検討部	行政の指導、助言を得ながら先行地区を参考に実効性、機動性のある組織を目指し、具体的作業を推進する。 * 検討工程の調整・フォロー * 住民の交通利用の実態調査・分析・反映 アンケートを2回実施 * 運行形態の検討 路線ルート・便数・停留所など * 公的機関、事業者からの指導助言 * 資金調達・運営費などの精査と推進 * 住民への周知・啓発 広報誌、回覧誌、ホームページ、傘下団体総会、役員会議、サロン、介護教室など * 運営に必要な手続き、規則類の作成 各部会において検討作業の段階において先行して折衝や調整を必要とする場合は適時、対処する。
第3ステージ 令和3年4月～	第2ステージの進ちよく状況などを総合判断し適時、地域内交通運営委員会の組織体を構築します。	地域内交通検討委員会を継承し、地域内交通運営委員会を設置する。 * 試験運行の実施及びフォロー、課題解決



地域包括ケアシステム《^{たい}支え合い体》活動紹介

私たちのまち「明保地区」では、高齢者の方々が住み慣れた地域や家庭で生きがいを持って、自分らしい生活ができるよう、第2層協議体（^{たい}支え合い体）を立ち上げ現在、様々な活動を進めています。具体的な仕組みづくりの検討を行いながら、実行性のある構築を目指しています。

項目	概要
高齢者見守り安心ネットワーク	日々の生活において見守りの必要な一人暮らしや老々世帯の方には、見守り活動員2人～3人（民生委員、福祉協力員など）を配置し、見守りなどの活動を行います。
災害時要援護者支援制度	災害が発生し、要援護が必要な場合は予め決めていた支援者が支援するシステムです。（市に事前登録）
認知症対応	認知症の方へのサポート養成、家族相談及び支援、徘徊者捜査訓練
地域内交通（生活の足）の構築	今回の25号 1頁、2頁参照
サークル、クラブなどへの参加奨励及び活動	明保地区にはクラブ、サークル、サロンなど30数以上の居場所や教室があり日々、活動を行っています。アンケートなどを介しながら、これらにお誘いし、元気で生きがいのある暮らしをするための一助としていただいています。
「地域包括支援センター・砥上」における相談、福祉サービス	介護、福祉、健康などの相談をお受けし、関係機関の紹介や地域にある様々の機関と連携し、適切なサービスを行います。要支援1, 2認定者の介護予防計画の作成やサービス利用の調整を行います。
民生委員、福祉協力員による日常生活への相談及び支援	自治会には民生委員や福祉協力員が身近に配置されています。日常生活などで困っていることがあれば、気軽に相談をしてください。

*地域包括ケアシステムの狙いや仕組みづくりについては既発刊の22号、23号、24号により紹介されています。

高齢者の皆さん、積極的に外の空気に触れ、人とおしゃべりし合い、身体を動かし、散歩に出かけ、日々の暮らし方に潤いを・・・



わがまちの潤滑油的役割

明保地域コミュニティセンター管理運営委員会

明保地域コミュニティセンターは、市から明保地区明るいまちづくり協議会へ指定管理者として運営業務を包括委託され、地域住民のコミュニティの場として

- * 20以上のサークルやクラブが定例的使用
- * 各団体、サークルなどの講座、教室、イベントなど、年間50回以上の定例行事
- * 各団体の適時会議、総会など
- * コミュニティコーナーの自由活用（雨情情報コーナー、図書閲覧、会合）
- * 事務所の一部コーナーに地域住民が来所し、団らんしながら交流する場を設けています。

などに活用され、地域まちづくりの拠点として運営されています。

明保地区では

☆管理運営委員会を毎月（第1週、火曜日の9時30分）開催し、明保地区の情報交換の場として活用されています。

☆委員は各団体からの推薦者、明保小学校関係（学校、地域協議会コーディネーター、PTA）行政（西市民活動センター）総勢30名によって構成されています。

☆各団体、学校、行政などから日常的な活動のうち、特記的な情報を発表していただき、情報の共有を図りながら、（必要により協力・支援・参加など）**まちづくりの潤滑的な役割**を担っています。

☆必ず議事録（後工程に反映する簡潔な内容）を作成し、団体や機関の長と委員に配布し、周知を図っています。



コミセン管理運営委員会



東日本大震災後の復興状況を視察 宮城県名取市・閑上(ゆりあげ)地区

名取市と明保地区との繋がりは当時、緊急的な救援要望のあった名取市へ、米や缶詰めなどの食品や下着類、日用品などトラック2台分を被災地へ届けました。1年後、救援先の被害状況を自分たちの目で確かめたいとの要望があり、名取市を訪問し市長が全員と面談、感謝の言葉と悲惨な被害状況の説明をいただきました。2千数百世帯が住んでいた閑上地区は全滅し、ゴーストタウン化となった状況に唯、啞然としてしまいました。

【被害状況：死者911名・行方不明82名・全壊家屋2、786棟】

今回、8年後の復興状況を確かめたいとの住民からの要望により、名取市にお願いしたところ、快く案内をしていただきました。津波襲来を考慮した広大な土地造成、集合住宅、集団商店街など、また被災跡地を後世に残すモニュメントを視察し、日本人の逞しい対応力に感銘を受けました。

帰りがけには、復興した商店街にて美味しい地産物をいただき、おみやげを沢山求めました。



若い躍動・まちづくりに貢献 明保リーダーズクラブ(通称:MLC)

中学校に入学すると従来の子ども会から離れ、部活などもあり、地域との関わりが疎遠化となってしまう。

そこで明保地区では、若い人たち(中学生、高校生)と地域を繋ぐ活動として

☺ 児童の夏季キャンプへのリーダー

☺ 各イベント(体育祭、文化祭、敬老会、夏祭り、梵天祭り、餅つき大会)へのボランティア参加

として参加活躍しています。活動を通じて地域の子どもたちのお兄さん、お姉さんとして、我がまちの活気を促す役割として、まちづくりにおおいに貢献をしています。

【現在、35名の会員が明保地区青少年・子ども育成会の傘下団体として活躍】



まちのイベントあれこれ

【夏祭り、子どもみこし祭り】

7月28日（日）、子どもたちが楽しみにしていた夏祭りが晴天のもと、地域ボランティアの方々や地域企業の若い人たちの協力により盛大に開催することが出来ました。

護国神社の宮司により子供たちの健全育成を祈願し、手作りの各子ども会みこしを担ぎながらワショイ・ワショイと羽黒山神社へ。広場では氷水、ポップコーン、焼き鳥、おにぎりなどをいただき、ゲームなど賑やかなひとときを過ごしました。

前夜祭は会所に訪れた大人たちを中心に和気あいあい・交流しながら、雨情女性クラブ会員たちによる手作りの夕餉をいただきました。



【流しソーメン大会】

明保地区では児童たちの登下校安全見守りを旧今市市での有紀ちゃん事件の1年前から（現在総勢80名のボランティア会員）継続活動をしています。この他、児童たちとは防犯パトロールや放課後授業の安全支援などを通じて交流がありますが、更に交流を深めるために夏季に流しソーメン大会を開催しています。

8月11日（日）児童、父兄100名を超える参加者が会員による竹で加工した手作りの二つのラインで和気あいあいのもと、お腹いっぱい流しソーメンをいただきました。



【防災訓練】

9月14日（土）、明保小学校校庭、体育館にて開催し、災害を想定した避難誘導（各自治会、土砂災害指定住民、災害時要援護者）・心肺蘇生穂法などの応急救護・初期消火・防災用資機材取扱・非常用電話使用の訓練と煙・放水体験、消防団員による放水操法訓練の披露など西消防署・城山分署、姿川消防分団の熱心な指導のもとに300名を超える住民が参加者しました。

これらの訓練や体験を通じて地域の互助、共助の大切さを実感しました。



【敬老会】

9月15日（日）、明保小体育館にて75歳以上の方々を招待し、佐藤宇都宮市長など多数の来賓参加のもと、子どもたちによる案内や肩たたきのおもてなしや米寿になられた方には花束を贈呈するなど、ほのぼのとした敬老会のひとときを過ごしました。

対象者には商品券と明保小児童の心のこもったお手紙を添えてお渡しをしました。



【体育祭】

10月6日（日）この日は残念ながら雨天となり、明保小学校体育館でのミニ体育祭になりました。限られたスペースの中で明保の輪・長縄跳びなどに各チームが競い合い、三世代交流の場として大いに盛り上がりました。

締め括りとして、「ドキュメント・ザ・誕生日」が全員で行われ、散会をしました。



【文化祭】

10月27日（日）明保地域コミュニティセンターにおいて、実行委員方々の熱心な活動により、作品展・演芸会・健康体験・マーケット・チャリティバザー・模擬店・接待コーナー・子ども会によるハロウィーンなどの催しに、多くの地域のお客さんや地域介護施設の方々が訪れ、地域の交流の場として賑わいの一日でした。



【梵天祭り】

五穀豊穰を祈願した梵天奉納の祭りが羽黒山神社主催で毎年11月23日（勤労感謝の日）に開催され、明保地区では20年前から参加奉納をしています。この日も明保地区梵天実行委員会のメンバーが中枢となり、大人と子どもの梵天を奉納、披露しました。

また、宮祭りには「宮梵天」が行進され、鶴田・梵天のみの参加に、市民観衆から熱い声援が得られていました。



【雨情まつり】

明保地区の住民は雨情の終焉の地として、雨情への畏敬の念があり、団体名や道路や橋など、多くの雨情の名を付けています。終焉の日を記念し、4年前から明保地域コミュニティセンターにて「雨情祭り」を開催しています。

今年も1月26日（日）に第1ステージ「講演会」、第2ステージ「雨情の歌を歌おう会」を開催し、雨情合唱団、ハーモニカクラブGp・宇都宮男性合唱団&明保小児童混成チームが参加し、多くの雨情の歌を披露しました。特に混成チームには地域に住む音楽教師の戸井田公子さんがピアノを演奏し、明保小学校の地域協議会コーディネーターの岡田智恵さんがナレーションを担当されるなど、ほのぼのとした歌声とムードに観衆から喝采を浴びていました。



めいほ あんなこと こんなこと



《通学路フラワーロード》5/11
「きれいな花を植えて登下校が楽しみ！」



《安協「自転車安全教室」》5/16
「以外に知らないルールが沢山ありました」



《赤十字防災セミナー》5/19
「近年増えている災害対策を学びました」



《ちびっ子農園開校式》5/19
「自分達で育てた野菜は美味しいね！」



《ときめき講座》5/23
「『歌声喫茶』青春時代に戻ったみたい」



《施設巡りの旅》6/5
「ムーミンバレーパークと聖天宮へ」



《健康づくりウォーキング》7/25
「爽やかな日光へ、湖畔ウォーキングしました」



《サマーキャンプ》8/17~18
「児童が一回り成長する姿を実感します」



《歩け中央公園・学べ博物館》11/3
「今年も元気に中央公園を歩きました」



《フランス料理教室》12/4
「若鶏と茸のフリカッセ等、美味しく頂きました」



《餅つき体験》12/22
「天気に恵まれ、美味しいお餅を食べました」



《しめ飾り教室》12/27
「一年の締めくりに立派な注連飾りができました」



《凧あげ教室》1/11
「よく飛ぶ凧に時間を忘れて飛ばしました」



《明保地区新年会》1/11
「明保地区の発展を祝して乾杯しました」



《救命指導講習会》2/22
「救命指導は何度受けても勉強になります」